



11月臨時増刊号 日新公民館だより

平成24年11月17日 発行

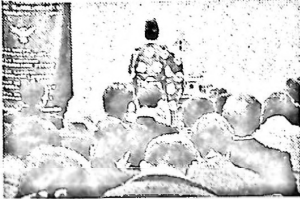
910-0017 福井市文京5-1-8

日新公民館 TEL&FAX 21-7225

日々草 (にちにちそう)

いよいよ運行開始!! (日新さんさんバス)

11月4日(日)午前10時より、日新公民館において日新さんさんバスの運行式典が、多数の来賓、参加者を得て行われました。また翌日の5日(月)より運行が開始されました。



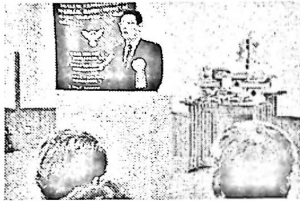
厳かに 颯川神社 坪田宮司による神事



安全運行を願って 清祇の儀 (きよめはらいのぎ)



牧田孝日新コミュニティバス運行協議会会長による挨拶



市長代理 福井市交通政策 参事官 北村直洋氏による祝辞



バス愛称(日新さんさんバス) 命名者 松井登志子様へ粗品贈呈



翌5日(月)、始発を前に、 運転手さんに花束贈呈

※東村市長様よりの祝辞が、コミュニティバスのねらい、これまでの経過、今後の課題等が大変うまくまとめられていると思われましたので、以下に掲載させていただきます。

東村新一福井市長よりの祝辞

日新地域コミュニティバスの出発式にあたりまして、お祝い申し上げます。▼福井市では、少子・高齢化が進むなか、クルマがなくても安心して暮らせるまち、人にも環境にもやさしいまちをめざし、多種多様な施策を展開しております。▼その取り組みの一つとして、平成二十二年四月に「地域コミュニティバス運行支援制度」を設け、それぞれの地域の個性や特色を活かしたコミュニティバスの運行に関する、住民の皆様の熱意あふれる取り組みを支援しております。▼日新地域におかれましては、平成二十二年から「誇りと夢・まちづくり日新」の交通部会を立ち上げ、地域住民の方々からの聞き取りなども行いながら、ルートやバス停の位置、運行ダイヤなどをまとめ上げてこられました。▼牧田会長をはじめとする関係各位のご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。▼明日からいよいよバスの運行が始まります。どうぞ愛着を持って多くの方に利用していただきますよう、利用促進についても積極的に取り組んでいただきたいと存じます。▼福井市としましては、引き続き地域の取り組みをサポートしてまいります。▼このコミュニティバスによりまして、日新地域がさらに豊かで住みよい地域になることを祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。

とにかく一度乗ってみてください!!

ご意見、ご提案等お待ちしております。公民館までお寄せください。

(裏面もあります)

※前号『公民館や各団体の活動状況や予定』の花月交番連絡協議会の日程が間違っておりました。正しくは11月28日(水)19:00~21:00です。お詫びして訂正させていただきます。

福井・日新コミュニティバス

きょう運行開始

福井市日新地区を走る新たな地域コミュニティバス「日新さんさんバス」の運行が4日、同市文京5丁目の日新公民館で行われた。2系統で、それぞれ1日6便の運行を5日から開始する。

同バスは、地区住民で作る「日新コミュニティバス運行協議会」が運営し、京福バスが実際の運行を担当する。運行は平

日のみで、運賃は一律100円(小学生以下、障害者は半額)。両系統とも「Aコープ堀の宮店」(堀ノ宮1丁目)が発着点で、地区内の駅や学校、病院、商業施設に停留所を設けた。一部は隣接する西藤島地区も通る。

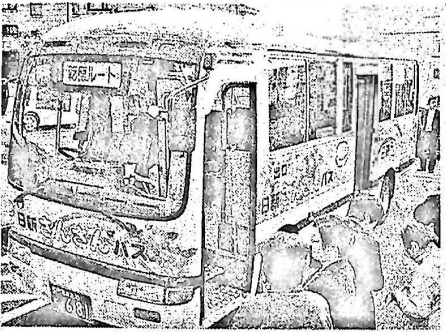
地域コミュニティバス運行支援事業を活用した。同事業によるバス運行は酒生、殿下、鷹巣・栗、鶉ノ宮ノ下・大安寺地域に続き5番目で、市



運行開始を前に「日新さんさんバス」を見学する住民ら＝4日、福井市の日新公民館

街地の運行は初めて。運行式には地域住民ら約60人が参加。運行協議

会の牧田孝会長が「地域住民でバスを見守り、育ててほしい」とあいさつし、参加者は運行を自前に控えたバスを見学した。



5日から日新地区で運行が始まる「日新さんさんバス」＝日新公民館前

日新の交通利便性向上

循環バスきょう運行

福井で式典

福井市日新地区を五日から2系統で循環するコミュニティバス「日新さんさんバス」の運行を前に4日、同市文京5丁目で行った。式典が開かれた。

1系統は乾徳ルートとハツ島ルートで、いずれもAコープ堀の宮店(堀ノ宮2丁目)発着。一日6便ずつ運行し、一周約30分をかけて域内の病院や小中学校を結び、料金は百円(小学生、障害者手帳所有者は五十円、未就学児は無料)。

事業主の「日新地域コミュニティバス運行協議会」が京福バスに運行を委託。市が亦予分を補てんする。

式典では、協議会の牧田孝会長(左)が「バス運行によって、利便性向上が期待できるといふ。」

高齢化の進む地区内には、えちぜん鉄道と路線バスが南北に走っていたが、東西を走る交通機関がなかった。東西を結ぶコミュニティバス運行によって、利便性向上が期待できるといふ。

(吉野淳一)